

「小さな拠点づくり」とは

島根県では、少子化や高齢化の影響で、県全体で人口が年間約5千人減り続けています。特に県土の約9割を占める中山間地域では、2010年からの20年間で人口の約1/4が減少すると予測されています。

人口減少が進む中でも、中山間地域で安心して暮らし続けるために、県と市町村は連携して「小さな拠点づくり」を進めています。

地域の「未来」をみんなで話し合い、そして実行する。

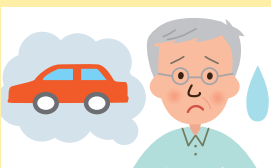
それが「小さな拠点づくり」です。

始まっています！



お住まいの地域でこのような課題はありませんか

- 一人暮らしのお年寄りの暮らしが心配
- 運転に自信がなくなった
- バス停が遠くて通院や買い物が大変
- いつまでも健康で自分の家に住み続けたい



「小さな拠点づくり」の進め方

- STEP1 まずは地域の現状を知りましょう
- STEP2 地域の課題を住民の皆さんで話し合い、認識し、課題解決の取り組みを計画としてまとめましょう
- STEP3 役割分担を決め、出来ることから実践活動を始めましょう

※県にご連絡いただきますと「小さな拠点づくり」の説明に伺います。お気軽にお問い合わせください。

地域の取り組み紹介（第5回）

生活交通の確保

いの 浜田市三隅町井野地区

家の前まで送迎 住民が住民を運ぶ

鉄道がなく、公共バスの便数も少ない交通不便地域。自宅から公共バスの停留所まで移動できない高齢者等の交通手段を確保するため、浜田市三隅町井野地区の住民団体が今年4月、車いす対応車両などを使って有償で人を運ぶ予約型乗合交通「井野つ地（いのつち）号」（公募による愛称）の運行を始めました。

運営するのは9年前に発足した地域運営組織の「まちづくり推進委員会 INO（いの）」。昨年度「井野の魅力ある地域づくり計画」を新たに策定し、住民一体となった防災や子育て支援、高齢者への生活支援、都市農村交流事業、地域の魅力発信などについて、話し合いや活動を進めています。

高齢化率が6割に近い同地区では、高齢者の外出支援を喫緊の課題にピックアップ。住民アンケートや意見交換、試験運行を経て、本格運行にこぎつけました。

買い物や通院に利用する戸谷幸子さん（71歳）は「自分で車を運転することに不安が出てきた。家の前まで送迎してもらえるので安心」。ドライバーの横内京子さん（71歳）は「喜んでもらえてやりがいがある。将来、自分も利用する立場になるので、頑張つて次の世代につなげたい」と意欲を語ります。推進委員会事務局長でドライバーも務める大田久一公民館長（64歳）は「40代の若い会長が就任し、活動に関わる若手も増えている。各世代が力を合わせて住みよい井野づくりを進めたい」と熱意を込めます。

【井野地区のデータ】

2018年4月末現在

人口 720人 高齢化率 58.6%

2048年の推計

人口 183人 高齢化率 77.4%

※2013年から2018年の年代別の人口変動を基にした推計（しまねの郷づくり応援サイトより）



利用者の声を元に、毎月ドライバーらが改善策を話し合う交通運営委員会

まるやま ようじ
丸山 洋司さん（まちづくり推進委員会―INO会長）いの



浜田市三隅町井野地区生まれ。益田市内の高校を卒業後、浜田市内の会社に就職。昨年4月「まちづくり推進委員会INO」会長に就任。交通運営委員会の会長を兼務。48歳。



愛称は「井野っ地(いのっち)号」
乗り合わせた住民同士の話が弾む

地域の交通 みんなで「守り」「育て」「つなぐ」

多忙な世代。会長就任への思いは

当初、集落の推薦を受け推進委員会に参加した頃は、仕事も忙しく会の活動にあまり積極的ではありませんでした。気持ちの変化は3年前。地域の若手が集まる「井野端委員会」の代表になり、祭りの復活などに関わるなかで、地域の人口が減っていることを実感しました。10年後の井野がどうなっているか、不安も感じました。まずは「今」住んでいる人たちが住みやすく楽しい地域にしたい。頑張る大人の姿を見た子どもたちや、今は他地域に転出している人たちが、将来戻ってきてくれる地域にしたい。そのような思いで会長就任を決意しました。

どのようなきっかけで始めたのですか

井野は旧三隅町で最も広く坂道も多い地区です。市の生活路線バスが運行するのは、幹線では平日の通勤通学時間帯が中心で、それ以外の路線では大半が週1、2回の1〜2往復。推進委員会などで高齢者への生活支援策を検討し、日々の移動手段を確保して、交流や見守りなどの役割も担う仕組みをつくりたいと話し合いました。そこで、持続可能な事業にするため、地域住民が主体となり運行する公共交通空白地有償運送を導入しました。

どのような交通システムですか

あらかじめダイヤと運行エリアを定め、地区から三隅町中心部までを平日に往路2便、復路3便運行しています。自宅からバス停までの行き帰りが大変

どのような未来を描いていますか

持続させるには運行で利益を生み出す仕組みが欠かせません。公民館だよりへドライバーの顔写真を掲載し、登録を促す地区担当を決めるなど、利用者を増やすPRに力を入れ、登録者は年度内に100人を超す見込みです。月1回開く交通運営委員会では、利用者の要望をもとに、利便性の向上などにつながるよう、今後も見直しを検討していきます。この事業に携わることにより、井野っ地号のドライバーたちも、利用者から元気をもらい、生き生きとしてきました。今後も、住民が支え合うシステムとしてみんなで守り、育て、未来につないでいきます。

【これまでいただいたご意見】

本当に災害は恐ろしいです。何が起きるか予測できません。それを少しでも未然に防ぐ、そして命だけは守る。地域の皆と助け合い、協力し合わなければいけないと思いました。(60代女性)

「小さな拠点づくり」のお問い合わせはこちら

- 【東部地区】 島根県庁しまね暮らし推進課 TEL:0852-22-5065
- 【西部地区】 西部県民センター地域振興課 TEL:0855-29-5514
- 【隠岐地区】 隠岐支庁県民局地域振興課 TEL:08512-2-9611